

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 24 日現在

機関番号：16301
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2011 ～ 2012
 課題番号：23700699
 研究課題名（和文） 教員養成段階に求められる体育教師の省察能力のルーブリック作成
 研究課題名（英文） A Making of Rubric for Reflection Assessment for Physical Education Teachers in Pre-service Teacher Education
 研究代表者
 糸岡 夕里（ITOOKA YURI）
 愛媛大学・教育学部・講師
 研究者番号：50387966

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、教員養成段階に求められる体育教師の省察能力についてのルーブリックを作成することであった。1 年目は、ルーブリックの観点やその標記内容について 2 名の研究者によって検討し、作成したルーブリックについて学生との共有を図った。2 年目は、模擬授業を取り入れた授業において、作成したルーブリックを活用することによって、授業を観察する際の視点を保証することができるという成果を得ることができた。

研究成果の概要（英文）：This research will attempt to provide a rubric for teachers' in training a self-evaluation method during their training period. the 1st year, two researchers examined a rubric viewpoint and its contents of a mark. The 2nd year in the lesson which took in the practice lesson, the result in which the viewpoint at the time of observing a lesson could be guaranteed was able to be obtained.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・身体教育学

キーワード：体育科教育

1. 研究開始当初の背景

日本では、教師の実践的指導力を保障するため毎年さまざまな改革案が出される一方で、その評価基準（Professional Standard）の作成については、何ら方策が出されていない。諸外国では、1980 年代からの教師教育改革のなかで評価基準を作成し、教員養成カリキュラムの質を保障するためアセスメントに基づいて、その成果を検証・改善し続けるサイクルが構築されつつある。たとえば、全米教職専門基準委員会（NBPTS）による「熟達した教師（2001）」、英国学校教職員職能成長担当機関（TDA）による「教師の資格授与一有資格教師の地位のための職能基準と教員養成の要件（2002）」、独国における常設文部大臣決議（KMK）「教員養成のための基準：

教育諸科学（2004）」などのように、教師の職務上の課題と教師教育の目標を体系的に明示した基準が示されている。

このような世界の動向に後れをとらないためにも、教師の実践的指導力の質を保障していくアセスメントツールの開発が喫緊の課題であった。

現在、日本では、いくつかの教員養成系の大学において、ルーブリックを活用した評価が試みられている。

ルーブリックとは、設定した評価の観点別における具体的な評価基準のことであり、ルーブリックを作成することにより、学生自身が自らの立ち位置（能力）を自覚し、何が不足しているのかを明確にすることが期待できる。また、学生の能力が各観点のどの基準

まで到達しているかが明確になることで一貫性のある客観的な評価が実現可能となる。

日本の教員養成系の大学において活用されているルーブリックは、教育実習を対象とした実践的指導力全般を評価するものである。教育実習は、教員養成段階における集大成といえるものの、各授業において何が身についたのか、より明確することが教員養成カリキュラムの質保障のためには必要不可欠となる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、教員養成段階に求められている体育教師の省察能力についてのルーブリックを作成することであった。

実践的指導力を高めていく上で、きわめて重要とされている省察能力に焦点化し、ルーブリックを用いて一人ひとりの学生の省察能力を評価することによって、教員養成カリキュラムの質保障へとつながると考えた。

3. 研究の方法

(1) 体育教師に求められる省察能力におけるルーブリックの作成

文献等により、教員養成段階において身につけるべき能力に対する情報収集を行うとともに、同大学に所属し、研究対象とした模擬授業を取り入れた授業を担当する研究者2名によりルーブリックの作成を行った。

(2) ルーブリックを活用した授業実践およびその効果

模擬授業を取り入れた授業において、作成したルーブリックを活用した授業実践を行い、その有効性について検証した。

① 対象とした授業

下記の授業（図1）において実施した5回の模擬授業の全省察レポートをルーブリック評価の対象とした。

科目名	保健体育科教育法Ⅰ
開講時期	2年前期
受講人数	約30名
種別	中高免許状取得のための必修
身につけて欲しい能力	体育授業における基礎的条件 および それらに関する省察能力

図1 対象とした授業の概要

② 分析方法

省察レポートについて、学生自身にルーブリック（図2）による自己評価を求めた。Aを3点、Bを2点、Cを1点とし合計点を算出し、教員も同様のルーブリックによる評価を実施した。

学生の評価得点と教員の評価得点について、相関係数を算出した。

4. 研究成果

(1) 体育教師に求められる省察能力におけるルーブリック

模擬授業を取り入れた授業において身につけて欲しい能力である「体育授業における基礎的条件」をふまえ、下記のルーブリックを作成した（図1）。各ルーブリックに対しては、3段階「A. 具体的な記述がある」「B. 記述がある」「C. 記述がない」により評価することとした。

A. 具体的な記述がある	B. 記述がある	C. 記述がない
	大きな声で、話が聞きとりやすい。	
	説明がわかりやすい。	
	ほめたり、励ましたりといった声かけが多い。	
	一人ひとりへの声かけが多い。	
	巡視ができています。	
	学習場面、特に運動学習場面が多い。	
	認知学習場面が設定されている。	
	インストラクション場面、マネジメント場面が少ない。	

図2 作成したルーブリック

評価の具体的な記述例としては、以下の通りであった。なお、各ルーブリックにおいて、記述内容のポジティブ、ネガティブの如何にかかわらず、具体的な手立てや改善案についての記述があれば「A. 具体的な記述がある」と評価した。

① 記述例1

「説明がわかりやすい」というルーブリックにおいては、省察レポートの記述に「説明が工夫されていた」という記述であれば、「B. 記述がある」と評価し、「画用紙を用いて、約束事や授業内容、大切なポイントなどを書いて用意し、生徒が何を行うのかわかりやすかった」という記述があれば、「A. 具体的な記述がある」と評価した。

② 記述例 2

「ほめたり、励ましたりといった声かけが多い」というルーブリックにおいては、省察レポートの記述に「子どもたちの意欲を引き出すためにも、アドバイスはもちろん、ほめるという行為はもっとあってもよかった」という記述であれば「B. 記述がある」と評価し、「フィードバックするときに生徒役への問いかけという形式を用いてよかった」という記述があれば「A. 具体的な記述がある」と評価した。

③ 記述例 3

「認知学習場面が設定されている」というルーブリックにおいては、省察レポートの記述に「認知学習面があった」という記述があれば「B. 記述がある」と評価し、「認知学習場面において各グループでの意見を発表する時間を設け、それに対するアドバイスができればもっとよかった」という記述があれば「A. 具体的な記述がある」と評価した。

④ 記述例 4

「インストラクション場面、マネジメント場面が少ない」というルーブリックにおいては、省察レポートの記述に「マネジメント部分がとても工夫されていた」という記述があれば「B. 記述がある」と評価し、「笛を使って『集合』『はじめ』『おわり』の合図を決めていたのでよかった」という記述があれば、「A. 具体的な記述がある」と評価した。

(2) ルーブリックを活用した授業実践およびその効果

省察レポートについて学生の評価得点および教員の評価得点を算出した結果、以下の通りであった(表1)。

学生の評価得点と教員の評価得点とでは、学生の方が高く評価する傾向が示された。

表1 学生および教員の評価得点

	学生の評価得点	教員の評価得点
平均	15.20	13.17
標準偏差	2.48	1.80
最高得点	18.00	15.00
最低得点	8.00	10.00

学生の評価得点と教員の評価得点について相関係数を算出したところ、相関関係は認められなかった($r=.040$)。

本研究において実施した分析方法は、学生は5回分の省察レポートを総括して評価したのに対し、教員は毎回の総括レポートの評価

得点に対し、学生別に平均値を算出したものであった。そのため、相関関係が認められなかったことが考えられた。

しかしながら、学生のルーブリック評価に対する理解の曖昧さも否めない。評価得点の算出方法を統一することはもとより、ルーブリック評価に対する学生の理解を促すことも必要となると考えられた。

(3) 今後の展望

① 学生によるルーブリック評価への理解

学生と教員とがルーブリック評価に対して共通理解をすることがルーブリックの要件である。しかしながら、そのことが十分に達成できたとはいいがたい。

省察レポートの記述内容について、教員がどのように評価しているのか、適宜学生へ紹介していくことを通して、学生自身の省察能力が高まることが期待できるとともに、学生によるルーブリック評価の妥当性も高まることが考えられる。

② 教員養成段階に求められる省察能力に対するルーブリックの作成

本研究で作成したルーブリックは、教員養成段階において求められる省察能力を網羅できたとはいいがたい。

ルーブリックを作成することにより、学生自身が自らの立ち位置(能力)を自覚し、何が不足しているのかを明確にすることが期待できること、また、学生の能力が各観点のどの基準まで到達しているかが明確になることで一貫性のある客観的な評価が実現可能となることから、教員養成段階において求められる省察能力を網羅したルーブリックを作成していくことが課題である。

③ 教育実習指導教員とのルーブリックの共有

教育実習先の指導教員とルーブリックを共有することにより、さらなる一貫した指導を実現することが可能となる。

教員養成段階における大学での指導と教育実習先での指導において、連携ができていくかといえば必ずしもそうではない現状がある。ルーブリックを活用することにより、教育実習に臨む学生の能力が明確になれば、教育実習先の指導教員も、よりの確な指導が実現できると考える。

④ 省察能力と実践的指導力の関係

本研究はあくまで省察能力について検討したにすぎない。実践的指導力を高めていく上で、省察能力がきわめて重要とされているものの、その関係性が実証されているとはいいがたい。

今後は、省察能力と実践的指導力との関係性について実証的に検討していくことが求められる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 3 件)

- ① 糸岡夕里、ルーブリックを活用した体育教師の省察能力の評価、日本体育学会第63回大会、2012年8月24日、東海大学
- ② 糸岡夕里、A Rubric for Reflection Assessment for Physical Education Teachers, the International Convention on Science, Education and Medicine in Sport (ICSEMIS)、2012年7月23日、Scottish Exhibition and Conference Centre (SECC) (グラスゴー、スコットランド)
- ③ 糸岡夕里、体育教師に求められる省察能力に対するルーブリック作成の試み、日本体育学会第62回大会、2011年9月27日、鹿屋体育大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

糸岡 夕里 (ITOOKA YURI)
愛媛大学・教育学部・講師
研究者番号：50387966